

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

科学研究費助成事業

研究成果報告書



平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：12606

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26770067

研究課題名(和文)アニメーション映画祭についての基礎的な調査・研究

研究課題名(英文)Basic Research on Animation Festival

研究代表者

土居 伸彰(Doi, Nobuaki)

東京藝術大学・大学院映像研究科・特別研究員

研究者番号：10580467

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：ヨーロッパを中心に発達したアニメーション映画祭が、歴史的にどのように役割を変えてきたのかを、映画祭ディレクターなどの関係者へのインタビューおよび現地調査によって明らかにした。1960年代にスタートしたアニメーション専門の映画祭は、かつてはアニメーションを芸術という観点から評価するための国際的な催しであったが、近年においては、世界のアニメーション文化を紹介することで映画祭が開催される現地の国・地域におけるアニメーション・シーンを育てるという役割にシフトしているということが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research project revealed how the animated film festival (developed mainly in Europe) has changed its role historically by interviews with related people such as film festival director and on-site investigation. Film festival specialized in animation, which started in the 1960s, was an international event to evaluate animation from the viewpoint of art in the past, but in recent years, by introducing the animation culture of the world, a film festival gains the role of nurturing animation scenes in the local country / region.

研究分野：アニメーション研究

キーワード：アニメーション 映画祭 ヨーロッパ 文化政策

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本におけるアニメーション研究はこれまで、作品分析や歴史研究、作品が反映すると思われる社会的状況についての研究が主なものとなっており、アニメーション作品を支える状況についてはあまり顧みられてこなかった。

(2) アニメーションを専門に上映する映画祭の歴史は 1960 年のアヌシーに始まり、すでに 50 年を超える歴史を持っている。市場価値とは異なる芸術的な価値をアニメーションに見出そうとするアニメーション映画祭は、文脈を生み出すにあたって、歴史的に重要な役割を果たしている。

(3) 近年、アニメーション映画祭の「産業化」が取りざたされることが多い。マーケットおよび見本市の併設や、若手作家のリクルーティングなど、商業的な部分に寄与するような試みに、歴史と伝統のある映画祭が中心となって取り込みはじめるという流れがある。

(4) 一方で、2000 年代以降、ヨーロッパを中心として、各地に新興のアニメーション映画祭が多くできはじめており、一説によれば 200 を超えると言われている。それらの映画祭が果たす役割は、商業的な部分への貢献のみならず、かといって芸術的な評価を与えるのみならず、新たな役割を帯びて生まれているように思われる。

(5) 以上のような状況の変化から、アニメーション作品の歴史と文脈を支えるアニメーション映画祭が、いかなる役割を担い、そしてその役割を変化させていっているかを調査することを考えた。

2. 研究の目的

(1) 当研究は、1960 年にアヌシーにて世界初のアニメーション専門の映画祭が設立されて以来、ヨーロッパを中心として各国に大きく広がっているアニメーション専門映画祭の歴史の変遷と現代におけるその役割の多様化について考察する

(3) 最終的に、アニメーション映画祭が歴史に果たしてきた役割について、今後さらに議論が発展していくための礎となるような研究成果を挙げることを目指す。結果として、アニメーションに対する文化政策のあり方について考えるうえでも有益な材料を提供することになるだろう。

3. 研究の方法

(1) 前項での研究の目的を達成するために、当研究では以下のアプローチを採用する。
海外アニメーションへの視察調査と資料

収集。

映画祭ディレクターをはじめとするアニメーション映画祭の主要関係者への聞き取り調査

(2) 上記の方法で行ったうえで、最終的には、各種学会での発表・講演、論文等の執筆、インタビューに関してはウェブサイトを作成しそこで成果を発表する。

4. 研究成果

(1) 映画祭関係者への聞き取り調査によって判明することになったのは、大きく分けて以下の 2 点である。

アヌシー、ザグレブ、広島、オタワといった、長い歴史を持ち、世界を代表するアニメーション映画祭として認識されている大規模な映画祭については、アニメーションに対し、商業的な価値観とは別の芸術的な価値観によって評価を与えるという目的を持ち、なおかつ、アニメーション芸術に携わる世界中の人々が集うことのできる国際的な交流の場としての機能を果たしていることが分かった。

2000 年代以降、ヨーロッパを中心として様々な国・都市に相次いで設立されている中規模～小規模なアニメーション映画祭については、世界中のアニメーション文化を紹介し、その歴史と多様性を伝えることによって、当地のアニメーション産業や文化を育成するという役割が強いということが分かった。

(2) 大規模な映画祭にもその役割に変化が訪れつつある。アニメーション映画祭は当初「商業性」からは一線を画そうとしたが、アニメーション産業の振興に対しても寄与するような機能を積極的に持たせようとする流れができつつある。その流れの筆頭として考えられるのがアヌシーである。アヌシーは、見本市(MIFA)の設置、長編部門の設置、映画祭の毎年開催などの方策を他の映画祭に比べてもいち早く取り掛かり、成功を収めている。かつてのアニメーション映画祭は「短編を中心的に取り上げる」「二年に一度の開催」「芸術性の称揚」を主な柱としていたが、現在では「長編を中心的に盛り上げる」「毎年開催」「産業的なハブとなる」という方向に舵を切りつつある。

(3) 中規模～小規模な映画祭も、地元のアニメーション産業および文化の振興を目的とすることから、産業的な機能を持たせることを厭わない傾向にある。具体的には、地域のアニメーション作家や学生と商業スタジオをつなげるリクルーティング的な機能や、国内では配給がかからない海外のアニメーション作品を見せるといった機能である。

(4) 以下では、各関係者に対して行った聞き取り調査の内容をまとめていく。

アヌシー(マルセル・ジャン＝アーティストック・ディレクター):世界最大規模で最も注目を集める映画祭であるアヌシーは、多くの関係者にとって「唯一参加する映画祭」であるという認識を強く持っている。それゆえに、世界のアニメーション・シーンの動向を把握し、世界中のトレンドをショーケースのように見せるかたちでプログラムを組んでいく。商業化を進めることによって批判を受けることもあったが、アニメーションとアニメーションではないものの境界線を探る「オフリミッツ」部門の新設など、文化・芸術としてのアニメーションの振興に対する方策も、近年は取るようになっていく。

ザグレブ(ダニエル・スルジック＝アーティストック・ディレクター):世界で2番目に古いザグレブ国際アニメーション映画祭は、アニメーション映画祭が生まれた当初の目的(アニメーション芸術の称揚)を遵守するため、「作家による作家のための映画祭」という立ち位置を取り続ける。ザグレブ市のサポートのもと、見本市などの商業的な機能は一切排し、学術的シンポジウム「Animafest Scanner」の新設など、芸術性や学術性にシフトすることによって、ほぼ同時期に開催されるアヌシーとの差異化を図っている。

オタワ(クリス・ロビンソン＝アーティストック・ディレクター):北米最大規模のアニメーション映画祭であるオタワは、アニメーション芸術を北米において紹介する場としての機能を果たしている。この映画祭は、アーティストック・ディレクターであるクリス・ロビンソンによる個性的なプログラミングやキュレーションで目立っている。かつてのアニメーション映画祭は様々な国の選考員による「外部選考方式」によってコンペティションの上映作品を決めていたが、クリス・ロビンソンはその流れを変え、映画祭のスタッフによる「内部選考方式」を浸透させる口火を切った。テレビジョン・アニメーション・コンファレンスの設置によって産業的な役割も果たし、ディズニーとのコラボレーションなど一般層へとリーチする努力を続けることで、個性をキープしたままに映画祭を重要なものとしつづけている。

オランダ(ゲルベン・シェルメル＝映画祭ディレクター):ユトレヒトにて開催されているオランダ国際アニメーション映画祭は、その独特なプログラミングによって中規模映画祭として突出したものとなっている。特筆すべきは現代美術やグラフィック・アートとのつながりを強く保つことで、「大人向け」のものとしてのアニメーションのアイデンティティを強く確立させようとしている。

アニメテカ(イゴール・ブラッツェル＝映

画祭ディレクター):スロベニアの首都リュブリャナで開催されるアニメテカ国際アニメーション映画祭は、ザグレブから車で2時間の場所に位置する。それでも現地に映画祭が必要なのは、スロベニアにおけるアニメーション・シーンを育成せんとするがためである。アニメテカはコンペティションの対象国を中欧・東欧に絞り、スロベニアを中心とした地域の才能に荣誉を与えることを考えつつ、世界の優れたアニメーションを継続的に紹介することで、地元の才能に刺激を与えている。

アニメスト(ミハイ・ミトリッチ＝映画祭ディレクター):ルーマニアの首都ブカレストで開催されるアニメスト映画祭は、かつて社会主義圏だった時代に国营スタジオで盛んだったアニメーションの伝統を、現在の状況下で再び再興させる目的を持ったアニメーション映画祭である。コンペティションや有名スタジオの関係者の招聘を通じてルーマニアの国内にて世界の優れたアニメーションを観るチャンスを作り、同時にワークショップなどを積極的に行うことで、アニメーションを専門とする学校が存在しない同国において、制作の後押しも行っている。

GLAS(ジャネット・ボンズ＝映画祭ディレクター):アメリカのバークレーにて開催されるGLASアニメーション映画祭は、長年アニメーション映画祭不毛の地となっていたアメリカにおける、新たなアニメーション映画祭設立の試みである。主にインディペンデント作品に焦点を当て、制作にあたって助成金をベースにしているヨーロッパとは異なる、産業とのマッチングをも視野に入れたプログラミングを行っている。これもまた、アメリカの個人作家たちに活躍の場を与えることによる育成のための試みである。

オットー・アルダー(ファントーシュ映画祭ほか):オットー・アルダーは、スイス最大のファントーシュ映画祭、エストニア最大のアニメーテッド・ドリームスほか、いくつものアニメーション映画祭の立ち上げに関わってきた人物である。アルダーによれば、どのアニメーション映画祭も、その立ち上げにあたって、使命感に燃えた若者たちが数名集まることによって立ち上げられ、その後自治体などからの援助を得て、国際的な認知を得たその国・都市を代表するアニメーション映画祭になるという発展のプロセスを辿っている。本研究はアニメーション映画祭の役割の変遷を辿るものだが、この発展のプロセス自体は過去も昔も変わらないものとして確認できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

土居伸彰、フレームの「向こう側」へ、美学芸術学論集、査読無、第 13 巻、2017 年、44-55 頁。

http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_public/G0000003kernel_81009795

土居伸彰、アニメーションの 10 年、映像作家 100 人 2015 年、査読無、1 巻、2015 年、22-25 頁。

土居伸彰、世界は今ここにある 細田守のアニメーションが描く「近さ」、ユリイカ、9 月輪寺増刊号、2015 年、42-46 頁。

土居伸彰、ただすべてを受け止めるべき風として 宮崎駿『風立ちぬ』、シネ薔、1 巻、2015 年、78-91 頁。

〔学会発表〕(計 3 件)

土居伸彰、アニメーション映画祭についての基礎的な研究、日本アニメーション学会、2017 年 3 月 25 日、東京造形大学渋谷サテライト教室(東京・渋谷)。

Nobuaki Doi, Japanese Animators on the World Stage, Ottawa International Animation Film Festival, 2016 年 9 月 23 日、オタワ(カナダ)。

Nobuaki Doi, Mutations and Transgressions: the Beginning of a New Era in Japanese Independent Animation, GLAS Animation Festival, 2016 年 3 月 4 日、パークリー(アメリカ)。

〔図書〕(計 2 件)

土居伸彰ほか、水声社、アニメーションの文化論、近刊予定、頁数未定。

土居伸彰、フィルムアート社、個人的なハーモニー ノルシュテインと現代アニメーション論、400 頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

アニメーション映画祭についての基礎的な調査・研究

<http://animationfes-br-jp.tumblr.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

土居 伸彰 (DOI, Nobuaki)

東京藝術大学・大学院映像研究科・専門研究員

研究者番号: 10580467